

124 モレブリエ東洋公園（2022 年 8 月 18 日）

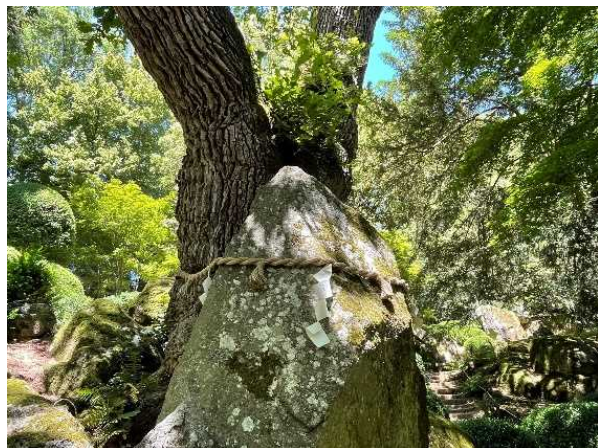
先日、フランスには美しい日本庭園がいくつもあることをご紹介しました（※）。パリから約 360 キロ南西に位置し、ナントやアンジェから 1 時間程度の距離にあるモレブリエには、ヨーロッパで最大級の日本庭園があります。

モレブリエには、17 世紀にコルベール城が建てられました。19 世紀末にここを買い取った所有者は、娘婿であった建築家のアレクサンドル・マルセルに城の改修を依頼しました。1900 年のパリ万国博覧会でカンボジアのパビリオンにあった「世界の塔」を担当したマルセルは、東洋の影響を強く受けていた建築家でした。マルセルは、1899 年から 1913 年にかけてここを整備して、日本風の庭園を造りました。庭園は荒れ果てた時期もありましたが、1982 年に庭園を保存するための協会が立ち上がり、現在はモレブリエ東洋公園として一般公開されています。

29 ヘクタールに及ぶ公園の敷地のうち、12 ヘクタールが日本庭園となっています。池のほとりには日本庭園の象徴とも言える石灯籠や太鼓橋があり、それらを見ているとフランスにいることを忘れてしまいます。しかし、視線を遠くに向けると、日本庭園と庭園に隣接する城を同時に目にすることができます。日本では見たことがない形に切り込まれた松の木もあり、日本人にとっては懐かしさと新鮮さを感じることができる庭園です。



6 月 1 日、ここで欧州日本庭園協会の設立総会が行われました。この協会は欧州中の日本庭園をネットワーク化し、庭師や日本庭園を愛する人々を集め、情報共有や庭師の技術指導を行い、欧州にある日本庭園をより美しく永続的に維持管理し、日本庭園を通じた日仏交流を推進していくことを目的として立ち上げられました。フランスには日本的な雰囲気のある庭園が数多くありますが、どのように管理したらよいかわからない所有者が多くいると聞きます。今回



パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

の総会に合わせて、日本から参加した日本の専門家や庭師が、フランスの庭師に石組みや剪定の技術指導を行いました。また、日本人庭師がこの公園の中で最も神聖な場所だと指摘した場所には、フランス人庭師がしめ縄（写真上）を作りました。しめ縄とは、神道で神聖な区域を区別するために用いられるものです。

前回ご紹介した記事（※）で、日本庭園の明確な定義はないとご説明しました。フランスと日本の庭師が直接的に交流して技術の共有が進めば、日本庭園の考え方について共通理解が生まれることでしょう。フランスと日本では植生が異なりますので、必ずしもフランスでは日本と全く同じ姿の庭園にはなりません。日本とヨーロッパの違いは、日本の庭師にも良い刺激を与え、日本にある日本庭園を新鮮な目で見直すことにもなります。ヨーロッパにある多くの日本庭園がネットワーク化されて日仏間の交流が進み、日本とヨーロッパの双方の日本庭園が発展していくことを願っています。

※ 113 日本庭園

<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100348711.pdf>

※※ European Japanese Gardens （英語版）

https://european-japanesegardens.fr/index_en.html

